



高等小學書方手本
女子用
第一學年下甲種

K14072
2.21
1下

K140.72

2.21

1下

高等小學書方手本

女子用第一學年下甲種

文部省

嘉。永。安。政。萬。延。文。

高甲下

久。元。治。慶。應。明。治。

高甲下

窓掛絨氈食卓椅

高甲下

子花瓶置物呼鈴

高甲下

驚き顔に鳴くひぐらしの
聲一しきり止むにし後を

五

高甲下

またく星に夢護らせて
静かに眠る夜の森林林。

六

高甲下

設備遊覽觀客珍

高甲下

禽異獸。艷麗。豪壯。

高甲下

長幼の序を紊るは私人の家にありてすら濫り
には行ふべきにあらず。ましてこれは公方家
なり。若しさる事もあらば自然天下の大

九

高甲下

高甲下

事にも立到るべし。如何にもして竹千代君に
將軍家の後を嗣がせまらざればやと神佛に
祈願をこめてます。思を教養に勞しけり。

十

母上様は逝きの電報を拝見致し
之に驚き入り先日来数度は手紙にては
追々快方の様様にこれあり安心致居り
又
突然のは凶報にてまことに疑はれ難

高甲下

此の様な事は従は私悼の程深きは察し
申す地の子故名思ひも少からずは
手紙にてはこれなくも存り何か急に
病
にてもお慰め次第にや返すぐも
終念に存り

高甲下

成。都。重。為。漢。口。漢。

十三

高甲下

陽。武。昌。江。寧。子。種。物。

十四

高甲下

古史通藩翰譜讀

十五

高甲下

史餘論折焚柴記

十六

歲暮中元慶吊粗

十一

高甲下

品薄謝餞別香奠

十二

高甲下

株式會社ハ多人數ノ資本ヲ合同スルモノニシテ
全クノ有限責任會社ナリ。其ノ總資本ハ少額ニ等
分シ其ノ一ヲ名ツケテ株式トイヒ又略シテ株トモイフ。株ノ
金額ハ普通五拾圓ヲ下ラス。而シテ其ノ出資者ヲ

稱シテ株主トイフ。會社ハ株主ニ對シテ證書ヲ
附與ス。其ノ證書ハ即チ株券ナリ。株主ハ其ノ株
券ヲ他人ニ讓リ渡スコトヲ得ルガ故ニ株式會社ノ
出資者即チ株主ノ員數ハ常ニ一定セズトイフベシ。

持つ人の心によりて尾とも

玉ともなるはこがねなりけり。

人知れず思ふ心のよしあしも

照しあくらん天地の神。

人の煙をきかことなかれ。
己の舌を説くことなかれ。

二十三

高甲下

人に施しては憐みて念ふ勿れ。
施を受けずは憐みて忘る勿れ。

二十四

高甲下

晴精鯖。洞桐銅。渚楮緒。
諸權勸歡觀。愉諭輸銜。野厘

二十五

高甲下

高甲下

量裏賑宸農。震場楊陽腸。綱
鋼剛。城誠盛。俸捧棒。倫論輪。

二十六

箱根越す人もあるらし今朝の雪。
宿賃せと刀投出す吹雪かな。

二十七

高甲下

狼の聲揃ふ冬より雪の暮。
荒熊のかけ散してやまの雪。

二十八

高甲下

福田。後藤。波多。聖。

二十九

高甲下

高。都。熊。出。冥。作。相。

高甲下

三十

奉書紬斜子。鹽瀨。
絲織銘撰海氣郡。

三十一

高甲下

高甲下

肉風道縮緬紗。紹。
天穉絨。需珍羅紗。

三十二

清澄澗川も氷解け
高し原山も雪むなり。

三十三

高甲下

由外の子まの痛なく
業ゆる春になりぬし。

三十四

高甲下

作戰計畫包圍兩

三十五

高甲下

翼。豫備。背。面。聯。絡。

高甲下

三十六

月日の過行くは校の飛ぶよりも
速し。昨日今日種を下し苗を移せし
花卉野菜の花咲き實を結ぶも

三十七

高甲下

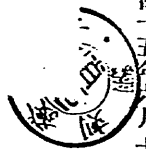
しはしの程ぞ。日々の課業と共に
樂しきは我が學校園なり。
待たるものは秋の日にこそ。

三十八

高甲下

K14072-2.21-17

明治四十五年四月二十五日翻刻印刷
明治四十五年六月十二日翻刻發行



著作權所有

明治四十五年四月三十日
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新
右衛門町十六番地

高等小學書方手本女子用第一學年下甲種

定價金參錢

文部

高部

大阪市南區難波善原町千八百八十八番地
大阪書籍株式會社

大阪市南區難波善原町千八百八十八番地
大阪書籍株式會社

印刷所
株式會社
國定教科書共同販賣所

